

# パワーフレックス

接着強度2倍

アクリル特殊エステル共重系  
高性能モルタル吸水調整剤

JIS A 6203 規格適合品



## 性状

主成分	.....	アクリル特殊エステル共重	水性エマルジョン
外観	.....	白色乳液	
固型分	.....	45±1%	
粘度	.....	100～500cps	
pH	.....	7～9	
密度	.....	1.03～1.04g/cc	
最低造膜温度	.....	0	
凍結融解安定性	.....	良好 (-10℃サイクル)	

## 特性

混入塗布兼用タイプです。  
セメント外に混入することによって保水性、作業性、接着性、等を向上させます。  
下地に塗布することによってモルタルの接着を大巾に向上させます。

## 荷姿

18ℓ缶入 (角缶)






ホルムアルデヒド放散等級  
F

## 塗布使用

### 用途

1. コンクリート、PC板、ALC板などの下地に施工するモルタルの接着増強。
2. セメント外に混入することによって保水性、作業性、接着性、等を向上させます。

### 標準使用法

用途	標準使用法	施工前と塗布量	1缶当りの施工面積
直接塗布	パワーフレックス 18kg  + 清水 36ℓ  (3倍希釈液)	壁 100～250g/m <sup>2</sup>	360m <sup>2</sup>
		床 150～250g/m <sup>2</sup>	300m <sup>2</sup>
セメントノコ塗布	セメント 40kg  + パワーフレックス 6kg  + 清水 適量 	壁・床 1～3mm厚施工	約100m <sup>2</sup> (1m/m厚み)

下地がALCの場合は塗布量は20～40%多くなります。

モルタル混入工法		<p>コテ塗り 養生7日以上</p>	<p>塗り厚 5mm</p> <p>75m<sup>2</sup> (2.5kg混入) 50m<sup>2</sup> (3.8kg混入) 25m<sup>2</sup> (7.5kg混入)</p>
薄塗りモルタル混入工法		<p>コテ薄塗り 養生3日以上</p>	<p>塗り厚 1mm 130m<sup>2</sup></p>
タイル圧着モルタル混入工法		<p>コテ塗り タイル圧着モルタルの塗り厚は 3mm以上</p>	<p>塗り厚 4mm</p> <p>35m<sup>2</sup> (珪砂20kg) 45m<sup>2</sup> (珪砂30kg)</p>

### 各工法における接着性能

工 法	パワーフレックス	接着強さ (N/mm <sup>2</sup> )		備 考
		市販品 アクリル	市販品 (EVA)	
現 場 調 合	3.8M	1.53M	1.36M	1:2モルタル 3倍液
セメントペースト	3.4C	1.47C	1.53C	セメント:3倍液 100:45
薄塗りモルタル	2.9C	1.11C	1.05C	セメント:珪砂:3倍液 100 : 75 : 45
軽量モルタル	2.3C	0.63CM	0.61CM	セメント パーライト ラテックス 水 40kg 70ℓ 1kg 適量
プレミックスモルタル	3.4M	1.22CM	1.00CM	プレミックスモルタル ラテックス 水 20kg 1kg 適量

#### <評価方法>

##### 接着性評価

国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 吸水調整剤 (Bタイプ) 試験方法に準拠  
強度測定 : 建研式引張り試験器にて測定

基材 : コンクリート歩道板 (JIS・ISO : 300×300×60mm)

表面を #120のサンドペーパーにて表面脆弱部サンディング

##### プライマー塗布

樹脂100部に対し 水400部 (5倍液に調整)

塗布量 150~200g/m<sup>2</sup> 刷毛塗り

乾燥 室温 (5~10 ) 環境にて24時間

##### モルタル打設

下記の配合のプレーンモルタル使用 (1/2モルタル)

普通ポルトランドセメント 675部

JIS標準砂 1350部

水 550部

(テーブルフロー値170±5mm、比重2.20g/ml)

6mm厚に金ゴテにて塗り付け、室温にて2日間湿空養生、7日間気中養生

接着強度 上記方法にて調整した試験体に40×40mmの金属治具をエポキシ接着剤で取り付け  
基板まで切り目を入れ、建研式引張り試験器にて接着強度を測定